第４学年　国語科指導案

日時　：平成２８年１２月１５日（木）　５校時
場所　：４年１組教室
指導者：早坂　美幸

１．単元名　　わたしたちの生活とロボットについて考えよう　　「『ゆめのロボット』を作る」

２．単元の目標

二つの文章を中心となる語や文を捉えながら関係付けて読み，考えたことを友達と伝え合い，自分の考えを深め広げることができる。

３．単元の評価規準

○人の役に立つロボットに興味を持ち，進んで二つの文章を関係付けながら読んで，自分も「ゆめロボット」について考えようとしている。【意欲・関心・態度】

◎段落相互の関係と中心となる語や文を捉えながら二つの文章の内容を読み取り，それらを関係付けて筆者の考えや願いを捉えている。【C 読むこと（１）イ】

○二つの文章の要点や細かい点に注意しながら読み，筆者の考えや願いを要約している。【C 読むこと（１）エ】

◎自分の考えた「ゆめのロボット」についての文章を読み合い，互いの考え方の違いに気付いている。【C 読むこと（１）オ】

○「ゆめのロボット」についての自分の考えを明確にし，筆者の考えを基に理由や事例を挙げながら書いている。【B 書くこと（１）ウ】

○修飾語と被修飾語の関係をはっきりさせるとともに，構成に気を付けて文章を書いている。【伝国（１）イ（キ）】

４．単元について

（１）教材観

本単元では学習指導要領における C 読むこと（１）イ「目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見の関係を考え，文章を読むこと」及び，オ「文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」を重要指導事項としている。

インタビュー記事と説明文という二つの文章を，筆者の考えがどのように表れているかに注意して関連付けて読むことで，より確かに筆者の考えに迫ることができるものとなっている。また，筆者の考える「ゆめロボット」について二つの文章を基に要約し，自分の考える「ゆめのロボット」を書く活動へとつなげていく言語活動が設定されている。ここで考える「ゆめのロボット」は教材文から離れたものではなく，教材文の読解を基にして自分の考えを展開していく点に留意が必要である。また，書いた文章を読み合うことで互いの考え方の違いに気付かせていくことができる教材となっている。

（２）児童観

本学級は男子８名，女子１０名の１８名で構成されている。国語の学習には意欲的に臨むことができる児童が多く，特に物語文を読み登場人物の気持ちを考えたり，物語文を書いたりする活動に意欲的である。説明文に関しては，「始め」「中」「終わり」など文章の構成を捉えたり，筆者の考えが書かれているところを見付けたりなどの活動は得意としている児童が多いが，筆者の考えをまとめたり，そこから自分の考えを書いたりなどの活動を苦手としている児童が多い。また，進んで自分の考えを発言したり書いたりできる児童と，自分の考えをまとめられない児童との差が大きく個別の声掛けが必要である。

（３）指導観

１次では，インタビュー記事と説明文とを関係付けて読ませていくことで，より筆者の意図を明確にすることができることをつかませていき，そのうえで筆者の考える「ゆめのロボット」とは何かについてまとめさせていく。そのために，まず，インタビュー記事から筆者の考える「ゆめのロボット」について「代わりにやってもらう」のではなく「自分の体を自分で動かしたい人の気持ちに応えたい」という筆者の願いを読み取らせていきたい。次に，説明文ではインタビュー記事と共通している筆者の願いが具体例を挙げながら述べられていることで，より筆者の願いに迫っていくことができることに気付かせていきたいと考える。筆者の作る「着るロボット」の中でもインタビュー記事と共通する「自分の体を自分で動かしたい」という願いに近い使用法を挙げさせることで，「心の面でも人を助けたい」という願いがどんなものであるか考えさせていきたい。その上で，２つの文章を関係付けて読む良さを押さえさせていきたいと考える。

２次では，１次で読んだ筆者の考える「ゆめのロボット」の考えを生かし，自分の考える「ゆめのロボット」を書かせる活動を行っていく。筆者の考える「ゆめのロボット」から離れてしまうことがないよう，筆者の願いをもとに，日常生活の場面とどんなことでどんな人が困るかを考えさせながら進めていきたいと考える。構成メモは説明文の読み取りを生かし，「機能」「対象」「効果」「願い」という観点から書かせていきたい。特に「効果」の部分では具体例や自分の経験を書かせることで，自分の「ゆめのロボット」という意識を強めていきたい。

３次では，書いた文章を読み合い交流する活動を行っていく。互いの文章を読み合う際に，インタビュー記事と説明文の筆者の願いを観点とし，友達の考える「ゆめのロボット」の良さについて相互評価させていきたいと考える。

５．単元の指導計画（１１時間扱い　本時　5/１１）

次	時数	学習内容	指導上の留意点	評価規準と 評価方法
1	1	○単元の学習課題を確かめ，学習の見通しを立てる。 ・筆者の考える「ゆめのロボット」について二つの文章を読んだ後，自分が考える「ゆめのロボット」について書くことを知る。 ・インタビュー記事と説明文の違いについてまとめる。	・題名読みを行い「ゆめのロボット」について自由に発言させ意欲を持たせる。 ・インタビューはインタビュアーの質問と筆者の答えという構成になっていて，インタビュアーの思考にそって読むことができる良さがあり，説明文は筆者の伝えたいことがそのまま表記されている良さがあることを押さえさせる。	・人の役に立つロボットに興味を持ち，進んで二つの文章を関係付けながら読んで，自分も「ゆめロボット」について考えようとしている。 【意欲・関心・態度】 （ノート・発言）
	2	○インタビュー記事を読み，質問と答えを確かめる。	・質問に対する答えを読み取らせる。	・二つの文章の要点や細かい点に注意しながら読み，筆者の考えや願いを要約している。 【C（1）エ】 （ノート・発言）
	3	○筆者のインタビュー記事から分かる筆者の願いを読み取る。	・「ゆめのロボット」とは筆者の希望や理想のロボットであるという押さえから，ロボットの定義と筆者の考えるロボットとの違いを読み取り，筆者の願いについてまとめさせる。	

	4	○説明文を「はじめ」「中」「終わり」に分け，インタビュー記事と共通している段落を押さえる。 ○「マッスルスーツ」と「アクティブ歩行器」について概要を読み取る。	・２つ目の質問と１段落，６つ目の質問と８段落が共通していることに気付かせ，異なっている中の段落に何が書かれているかを読み取っていくことを伝える。 ・２つの具体例についてどんな機能や工夫があるか読み取らせる。	・段落相互の関係と中心となる語や文をとらえながら二つの文章の内容を読み取り，それらを関係付けて筆者の考えや願いをとらえている。 【C（1）イ】 （ワークシート・発言）
	5 (本時)	○「マッスルスーツ」と「アクティブ歩行器」について使用する人と効果を付箋に書き出し，より筆者の願いに近いものとそうでないものに分類する。 ○「心の面でも人を助ける」という筆者の願いについてどんな人がどんな気持ちになることか考え，筆者の願いをまとめる。	・「自分の体を自分で動かしたい人の気持ちに応えたい」という筆者の願いから，付箋を分類させるようにする。 ・具体例があることで筆者の願いにより迫っていくことができることに気付かせていく。また，インタビュー記事では「ゆめ」だったものが現実の「着る」ロボットになっていることも押さえさせる。	
2	6	○「普段の生活に役立つ」「自分の体を自分で動かしたい」という筆者の考えを受けて，どんな場面が考えられるか話し合う。	・筆者の考えから離れてしまうことがないよう，日常の場面を想定させながらどんな場面でどんな人が困るか話し合わせるようにする。	・「ゆめのロボット」についての自分の考えを明確にし，筆者の考えをもとに理由や事例を挙げながら書いている。 【B（1）ウ】 （ワークシート・発言） ・修飾語と被修飾語の関係をはっきりさせるとともに，構成に気を付けて文章を書いている。 【伝国（1）イ（キ）】
	7 8	○自分の考える「ゆめのロボット」についてという観点から構成メモにまとめる。	・「ゆめのロボット」について，観点を基に構成メモを作成させる。 ・具体的な活用場面や，考えたきっかけなどを構成メモに記入させる。	
	9 １０	○構成メモを基に，自分が考える「ゆめのロボット」について書く。	・構成メモを基に，文章を書かせるようにする。	
3	１１	○自分の考えた「ゆめのロボット」を発表し合い，感想を交流する。	・筆者の願いに照らし合わせ，感想を交流させるようにする。	・自分の考えた「ゆめのロボット」についての文章を読み合い，互いの考え方の違いに気付いている。 【C（1）オ】

６．本時の指導

（１）ねらい

○インタビュー記事の筆者の願いと説明文とを関係付けて読み，筆者の願いを捉えることができる。

（２）ねらいに迫るための手立て（本研究授業の提案）

①インタビュー記事と説明文とを関連させながら読み取りを行うことができるように，上下に本文を示すワークシートを使用させることで，関係付けて読む良さに気付かせるようにする。

②グループ活動で筆者の願いに近い使用例を見つけさせることで，より具体的に筆者の考える「ゆめのロボット」とは何かに迫れるようにする。

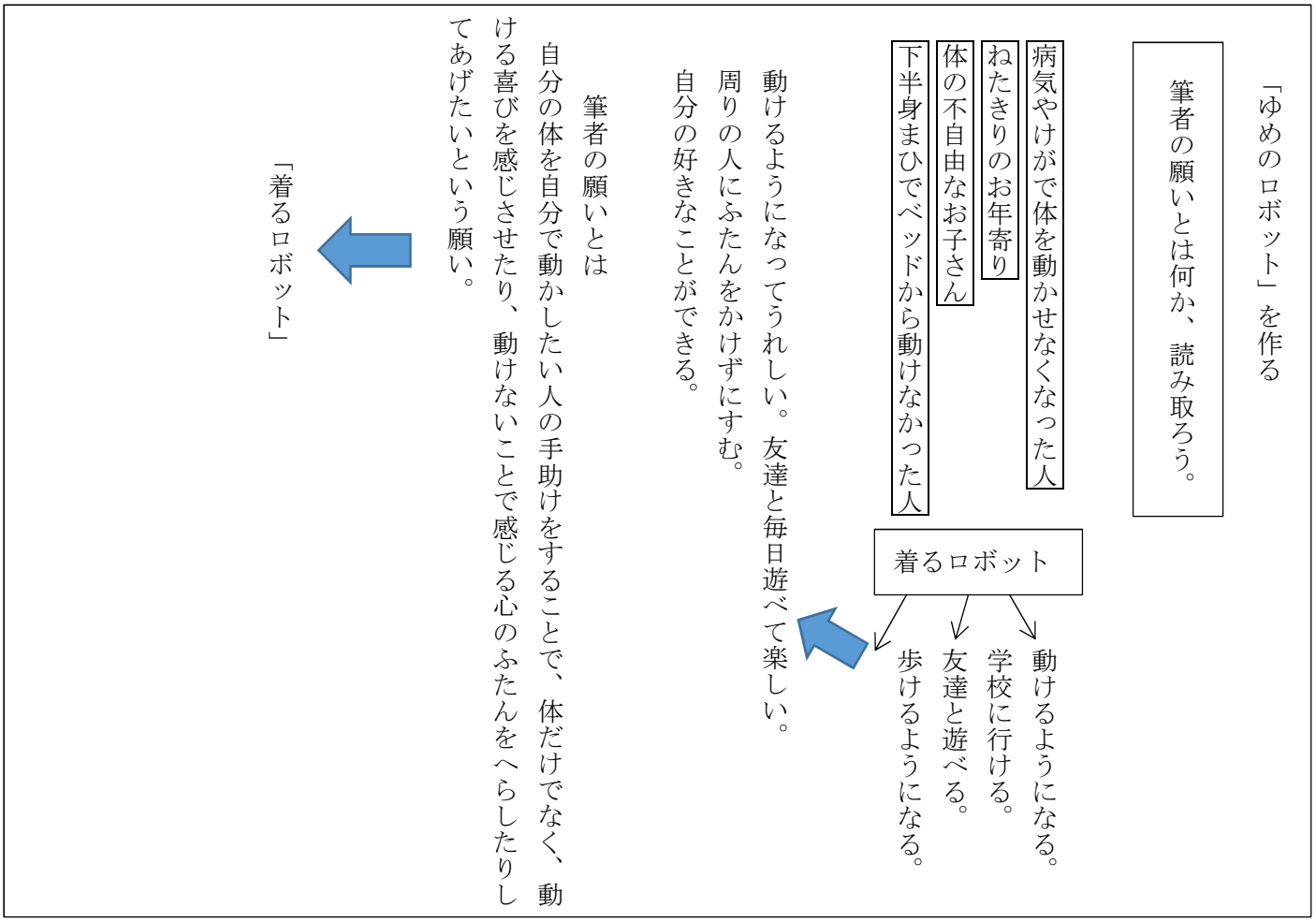
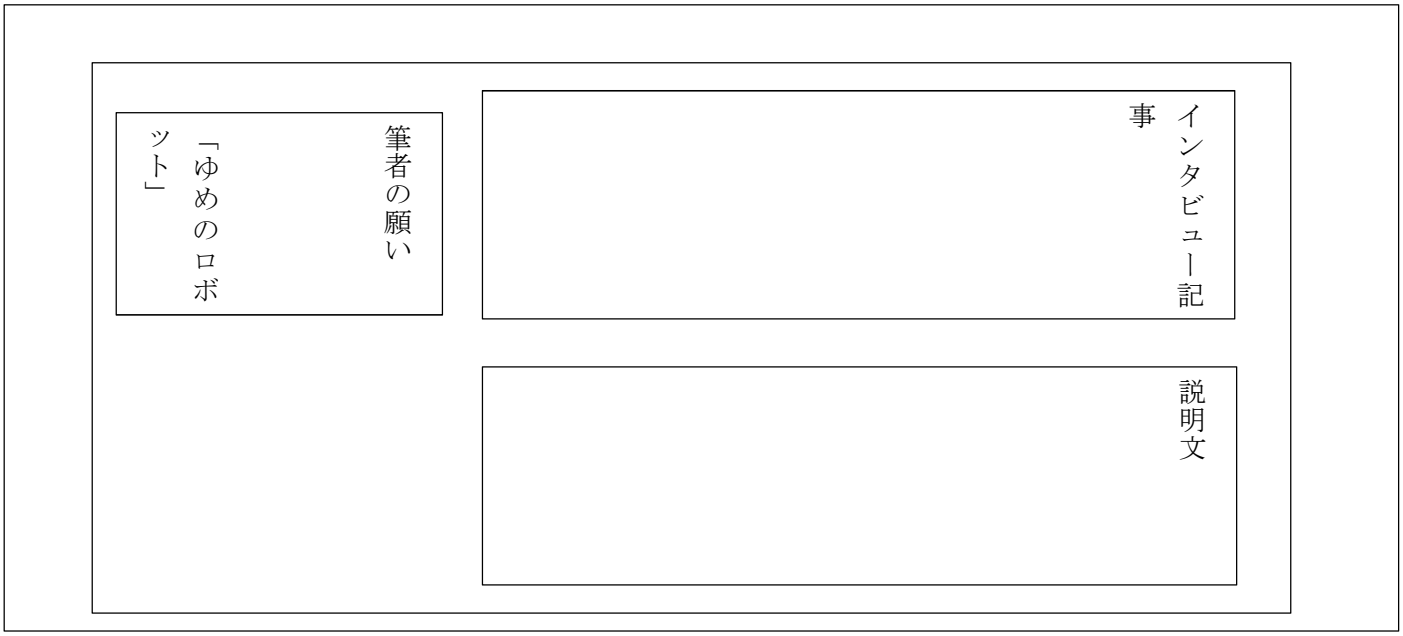
（３）本研究の授業技術課題

・１時間の思考の流れが明確になるように板書を工夫する。

（４）指導過程

段階	主な学習活動	指導上の留意点	評価
導入	１．前時に読み取った「マッスルスーツ」と「アクティブ歩行器」機能とインタビュー記事との関連を振り返る。 ２．インタビュー記事６と８段落が共通していたことを押さえ，本時のねらいを知る。 筆者の願いとは何か，読み取ろう。	・どちらのロボットも「人の役に立つ」「直接手助けする」ロボットであることを確認させる。 ・インタビュー記事で押さえた筆者の願いを確認させる。	
展開１	３．「マッスルスーツ」と「アクティブ歩行器」についてどのような人が使用しているか付箋に書き出す。 ４．グループごとに付箋を仲間分けし，「自分の体を自分で動かしたい人」という観点を見付けていく。 ５．ロボットを使うことでどのようなことができるようになるか、グループで話し合う。 ５．「心の面でも人を助けたい」とはどういう願いか「自分の体を自分で動かしたい」という人の気持ちから考え，筆者の願いをまとめる。	・「工場で働く人」「病気やけがで体を動かせなくなった人」など，１枚の付箋に１つの対象で整理させるようにする。 ・筆者の願いである「多くの人の役に立つもの」の中でも「自分の体を自分で動かしたい」という願いに当てはまっているものを見つけさせ，筆者の願いを具体化していく。 ・体を動かせることでできるようになる様々なことを想像させる。 ・自分で体を動かせるようになった人やその周囲の人の心に目を向けさせ，「心を助ける」という意味を考えさせる。 ・インタビュー記事の願いと共通のものであり，「ゆめ」が現実のものになっていることを押さえさせる。	◎インタビュー記事と説明文とを関係付けて読み，筆者の考えや願いを捉えている。【C（１）イ】（ワークシート・発言）
まとめ	６．二つの文章を読むことで，より深く筆者の願いを読み取ることができることを確認する。	・二つの文章を関係付けて読むことの良さについて気付いたことを発言させる。	

（5）評価

具体の評価規準	二つの文章を関係付けて読み，筆者の願いを捉えることができる。
A と判断する姿	二つの文章を関連付けて読む良さに気付き，筆者の願いを捉えることができる。
C への手立て	使用する人の気持ちを具体的に考えさせ，筆者の願いを考えさせるようにする。

（6）板書計画